

コーヒーズレイク

「キャンプブームって終わったんだっけ？」

與那嶺 淳

(中部徳洲会病院)

コロナ禍において、「3密を回避しつつ楽しめるレジャー」としてキャンプ熱が大変盛り上がっているという報道がありました。

ところが、昨年末には日本を代表する高級アウトドアブランドのス〇ー〇ークの純利益が99.9%減の100万円！？というニュースが流れ、メルカリやリサイクルショップにキャンプ用品が大量に売られているとか、キャンプブームが終わったかのような報道がなされました。

自称キャンプ好きの身からすると、びっくりはしましたが、正直寂しいとか残念という気持ちは全く無いというのが心情です。

我が家のキャンプ歴はコロナ禍前の2016年、長男がまだ3歳の頃となります。当時は、オムツを履いている我が子と泊まりがけキャンプはハードルが高いと思い込んでおり、まずはディキャンプデビューとなりました。公園や川にワンタッチテントやタープをたて、一日中遊んで帰るというスタイルを過ごしておりました。

それから3年後のGW、6歳の長男と私だけで初のお泊りキャンプデビューをしました。だんだん慣れてくるもので、次男のお泊りキャンプデビューは2歳でした。

キャンプにおいて、大は小を兼ねません。持って行けるものは限られている為、大きすぎると他の装備(ギア)が持っていけないし、小さすぎると足りないので持って行かない方がマシです。何人でいくか、誰といくか、何泊するか、場所はどこか、管理されたキャンプ場か否かでギアを変えていく必要があります。この8年ほどの間で、テントは3張目となり、クーラーボックスは大小合わせて5個目、ポタ電(ポータブル電源)は2個目、寝床はエアベッドからインフレーターベッドとなりました。一度も実戦使用しないままお蔵入りのキャンプギアもあれば、ずっと使い続けているものもあります。

キャンプの楽しみ方も人それぞれです。ファミリーキャンプ(ファミキャン)もよし、1人(ソロ)で焚き火の炎を眺めるもよし、ソロだけれど

も仲間と一緒に過ごすソログルキャンなんてものもありますし、ブッシュクラフトと言って、なるべく荷物を持たず、イメージとしてはサバイバルに近いスタイルもあります。

私の楽しみ方はもう少し違っていて、キャンプギアの物色です。設備の整ったキャンプ場では、あちらこちらでテントが設営され、アウトドアを楽しむ人の姿が見られます。その中を散策しながら、テントやタープの張り方からサイトレイアウトを眺めたり、使用されているギアをチェックして回るのです。そして気に入ったものがあればすかさず通販サイトで詳細をチェックし、欲しいものリストに加えていくのです。

そこで基準となるのが、

- ・買替えを検討するほど必要なものか
- ・『被り』具合が少ないか

となってきます。

行った先のキャンプ場で、手持ちと同じテントが乱立していたら、正直テンションが下がります。『唯一無二』とはいませんが、ちょっと皆とは外れた存在でいたい。ス〇ー〇ークもコー〇マンも良いメーカーと思いますが、どちらもよく見かけるんですよね。そうなるとちょっと選択肢に上げにくい…ま、ス〇ー〇ーク高いし。な感じとなります。

ということで、本当にキャンプブームが終わるなら、人気のキャンプ場の予約が取れやすくなるし、ギアにしても若干値下がりがあるかもしれない。そうすると益々欲しいものリストは増えていくし、ああどうしよう困ったなあ・・・という嬉しい悲鳴状態といったところでしょうか。

コロナ禍は関係なく、キャンプを楽しむ人は楽しみ続けるでしょう。

願わくば、子供たちが大きくなっても、一緒にキャンプがしたいものです。